

聖マグダレナ・ソフィア・バラ（1779 - 1865）のご生涯の間の 聖心会内の伝染病¹

ソフィア・バラは長い生涯の間に、修道院と学校に多大な影響を与えた伝染病の波に何度も襲われました。コレラは広く頻発する伝染病で、世界中で何千もの命を奪いました。ゆっくり燃える病で、時間をかけて移動したと思うと、別々の時期に別々の国で急に激しく燃え上がりました。1832年にパリを襲ったコレラは、元は1816年にインドで始まり、中国、ロシア、ポーランドと順に移り、イギリスへと飛びました。フランスは、逃れることができるかと希望を託しましたが、1832年にパリの町を襲い全国に蔓延しました。パリだけで2万人が亡くなりました。フランス全体で10万人が亡くなりました。しばらくして、この病は北アメリカに移り、次にカナダへ、そしてヨーロッパに舞い戻りました。コレラは1836年にローマを襲いましたが、その時ソフィはヴィラ・ランテに滞在していました。このウィルスが気ままに移動することを証明するかのように、ヴィラ・ランテは無事でしたが、ティベル川の向う岸にあったトリニティ・デ・モンティの修道女と生徒たちに大打撃を与え、多くの修道女と生徒が亡くなりました。

二つの事例をあげましょう。ソフィア・バラは、創意と機動力をもって伝染病に対処し、現実的な洞察力は早い決断を生みました。これは聖心会の回覧、各長への個人的な手紙ばかりでなく、経理担当、及び、台所、洗濯、清掃、病室、そして農場の責任者への手紙からも明らかです。ソフィが一番頻繁に口にしたいのは、修道会と生徒たちの健康を守るために責任者が真剣な予防策を講じてほしいことでした。食事の質と十分に体を休めることに気を配ること、特に質の高い基本的な食物を列挙し、それらをすべての台所に供与しました。こうして修道者、学校の生徒たちが、伝染病に感染しやすくさせる風邪や熱から守ることができたのです。また、評判のいい医者意見を定期的に聞くことを勧めました。それにもかかわらず多くの者が犠牲になり、深い悲しみとなりました。ソフィアの一生において他の伝染病の蔓延を経験しました。すなわち（彼女自身幼い時にかかった）天然痘、マラリア、ジフテリアなどです。多分コレラ以上に、会が最もひどく罹患した病は、「白い疫病」と呼ばれた結核でした。咳やくしゃみで簡単に感染し、多くの若い修道女や生徒が犠牲になりました。

会の伝染病の経験と密接に関連したのは1789年のフランス革命以後、1830年、1848年、1860年の革命と続いたヨーロッパの継続的な戦争でした。学校を一時的に閉校したり、修道院の散会が余儀なくされたり、学校や修道院の生活は混乱に陥りました。戦争時には学校と修道院の宿舎が、軍隊の病院として接収されることがありました。これを予期して修道院と学校を守るために、ソフィアはパリの1848年革命の折に、ヴァレン通りのピロン邸で負傷兵の世話をすることを申し出ました。こうして建物が徴発され、略奪されることを上手に防いだのでした。会の運営も犠牲となりました。総会は何年もの間延期されなければなりません。特に1842年から1851年の間、また1860年—1864年は開けませんでした。伝染病、戦争、革命がやっと終息してみると、修道院の中に重症のトラウマにかかった女性が大勢おり、完治しなかった場合もありました。ひどい神経衰弱になった人のため、ソフィは彼女たちに適した療養所や施設を探しつつ、彼女たちが修道院に戻ることをいつも願うのでした。何人かが戻ってきたことはソフィにとって大きな慰めでした。

この事項に関する詳細は、ローマのヴィラ・ランテの聖心会のアーカイブに保管されているソフィ・バラの1万4千通の手紙の原文に記録されています。また、修道院の手紙、日記、記録簿、学校の日誌と記録簿、死亡通知、医療記録も保管されています。

フィル・キルロイ rscj
2020年5月、ダブリン

¹この記事は、RSCJINTERNATIONAL に公表され、以下からもアクセスできます。

<https://rscjinternational.org/news/epidemics-society-sacred-heart-lifetime-madeleine-sophie-barat-1779-1865>

(新井協子訳)